（別紙５）

補助事業概要の広報資料

補助事業番号：　23-1-017
補助事業名：　　平成２３年度 環境にやさしい自転車社会作りのための啓発普及補助事業
補助事業者名：　財団法人　日本自転車普及協会

１．補助事業の概要

（１）事業の目的

自転車を利用することにより、豊かな自然と快適な生活環境を確保し、健康で明るい社会づくりのため自転車利用の環境促進を図り、もって公益の増進に寄与する。

（２）実施内容

ア．自転車月間推進事業

平成23年度自転車月間推進事業の報告と決算報告の審議及び平成24年度自転車月間事業の実施計画と予算等を審議するため、自転車月間総会を開催した。

また、「自転車月間（自転車の日／５月５日）」及び月間趣旨により一層の普及啓発を図るため、自転車月間「自転車の日」記念行事『サイクルドリームフェスタ2012』を開催した。

イ．自転車に関する総合情報提供事業

自転車の情報発信基地である「自転車文化センター情報室(科学技術館内 2 階Ⅰ室)」を、平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで、本年度より制定された科学技術館休館日(不定期の水曜日・年末年始)を除き、毎日運営した。

自転車文化センター情報室入場者数 44,169 名

また情報室内に来館者自らが当センター所蔵の図書・現物・映像等の資料を検索することができる「タッチメディアステーション資料情報検索システム構築」し、来館者の利便性向上を図った。

ウ．自転車に関する企画催事

自転車の持つ魅力と暮らしに役立つ利便性を広く紹介するために、企画催事「自転車が人にできること ～ここまでできる自転車の魅力～」を下記のとおり開催した。

名　称：企画催事「自転車が人にできること ～ここまでできる自転車の魅力～」
期　間：平成 23 年 10 月 1 日(土)～2 日(日) (2 日間)
場　所：科学技術館 1 階　1・2・3・4 号催物場
内　容：(1)「人に役立つ」事をテーマとしたハンドメイドや特別製作車の展示と試乗
(2)「運搬用自転車の活用事例」展示コーナー
(3)「東日本大震災被災地サイクリストからの声」展示コーナー
(4)「非常時に役立つ自転車と自転車用品」展示コーナー
(5)自転車文化センター所蔵の「物を運ぶ自転車」の歴史展示
※来場者：計 1,011 人 (10 月 1 日(土)357 人／10 月 2 日(日)654 人)

エ．自転車に関する特別展示

自転車文化センター情報室において、当センターの資料を活用して来館者に自転車の奥深い魅力や多様な活用法を紹介するため、3 ケ月毎に 4 テーマを更新する特別展示を行った。

(1)名　称：「ミショー型自転車誕生 150 周年」展
期　間：平成 23 年 4 月 1 日～7 月 12 日
入場者数：11,572 名

(2)名　称：「子どものときに遊んでいた自転車・三輪車」展
期　間：平成 23 年 7 月 15 日～10 月 10 日
入場者数：11,116 名
(3)名　称：「自転車で旅に出よう」展
期　間：平成 23 年 10 月 16 日～平成 24 年 1 月 10 日
入場者数：11,545 名
(4)名　称：「アジア・アフリカの自転車」展
期　間：平成 24 年 1 月 14 日～4 月 8 日
入場者数：10,576 名（※1 月 14 日～3 月 31 日迄）

オ．自転車の科学教室

平成 23 年度自転車普及事業自転車教室として「夏休み親子で学ぶ自転車の科学教室」を以下の通り開催した。

名　称：「夏休み親子で学ぶ自転車の科学教室　チェンジギヤを科学する」
期　間：平成 23 年 8 月 7 日、9 日、11 日、14 日（全 4 日間）1 日 2 回実施
場　所：北ノ丸サイクル内
内　容：①チェンジギヤの働きとしくみを学ぼう
②むかしの形の自転車と今の形の自転車の 2 種類の模型を組み立ててみよう
定　員：1 回につき親子 10 組
参加者：65 組 176 名（各日とも 1 日 2 回／定員親子 10 組）

なお、夏休み時期以外の「親子で学ぶ自転車の科学教室」を下記のとおり開催した。

平成 23 年 5 月 5 日「自転車の歴史とメカニズム」教室開催（※ｻｲｸﾙﾄﾞﾘｰﾑﾌｪｽﾀ 2011 内）
5 月 22 日「どうして前輪の大きな昔の自転車は乗るのが難しいのかな？」
6 月 19 日「タイヤの安全確認・パンク修理にチャレンジしてみよう！」
7 月 18 日「自転車のライトはどのくらい明るくなるのだろうか？」
9 月 18 日「自転車の素材 アルミニウムの特徴を調べてみよう！」
10 月 9 日「慣性の法則とジャイロ効果の働きを考える」
11 月 20 日「前ホークのオフセット効果を体験してみよう！」
12 月 18 日「ギヤを変えると何が起こるのか？」

平成 24 年 1 月 22 日「倒れないためのバランスの取り方を再確認してみよう！」
2 月 12 日「倒れないためのバランスの取り方を再確認してみよう！」

カ．自転車の安全利用教室

自転車文化センターで実施している「親子で学ぶ自転車の科学教室」ならびに情報室に来館する幼児・児童等を対象として、絵解きと写真を使ってわかりやすく自転車の交通安全ルールと正しい乗り方を啓発するため、『わかるかな？ みんなで覚えよう 正しい自転車のルール（小学生用）』を制作し、配布した。

キ．自転車常設企画展示出展

自転車文化センターの外部広報展示として日本サイクルスポーツセンター内に展示した。

場　所：日本サイクルスポーツセンター（静岡県伊豆市大野 1826 番地）
展示物種類：自転車文化センター各施設紹介パネル展示、自転車及び関連物品展示等
期　間：平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
来場者：24,835 名

ク．自転車利用環境研究レポート

自転車文化の継承と普及、ならびに現在・未来における“人と自転車・社会と自転車”との関わりを考える提案のための調査研究として、当センターの谷田貝一男学芸員と村

山吾郎学芸員が下記の各６テーマ／合計１２テーマのレポートを作成し、調査研究報告書を全国都道府県立図書館や全国都道府県交通安全協会等に配布すると共に、下記のとおり当センターホームページにおいて公表した。

参考：平成 23 年度事業　他誌掲載論文一覧

 交通史研究第 77 号 「大正期自転車卸売業界」／谷田貝一男	 東京くらしねっと No.180 「自転車で楽しい外出を！」／村山吾郎
 ヒストリア茅ケ崎第 4 号 「石上巡査日記から判明した日本最古の自転車ロードレース」／谷田貝一男	

ケ．高齢者・障害者向け自転車普及啓発事業各専門分野の有識者等で構成した「高齢者・障害者向け自転車普及検討委員会」を設置し、全 3 回検討委員会を開催し、課題・問題点の整理、抽出を行った。

都内 2 カ所（テクノプラザかつしか、時事通信ホール）において、高齢者障害者向け自転車の展示を行い、一般の方に向けた自転車のＰＲを行った。

板橋区立グリーンホールにおいて、展示試乗会を開催した。モニターの方に実際に試乗いただき、アンケート調査を行った。

コ．健康増進のための自転車利用啓発事業

心身の健康維持・改善のため一般健常成人およびサイクリング愛好家を被験者として、種々の強度、時間及び頻度の組合せによる自転車走行トレーニングを実施し、その前後に種々の生理・科学的な測定を行った。

このデータを基に、トレーニング効果を評価し、これまで２年間調査してきた結果と併せて、自転車による健康づくりのための総合的な運動プログラムを作成した。

サ．自転車乗用に関する市民権宣言ポタリング

自転車に乗り始めた方々を対象とした走行会の場を提供し、自転車に乗ることの快適性や利便性を伝えるとともに、自転車の乗り方及び、自転車市民権宣言に則したルール・マナーを啓発し、自転車の魅力を知っていただくために「春を先取りポタリング」と題し、２回のポタリングを実施した。

シ．バイコロジー地方組織開催

「自転車市民権」や「バイコロジー運動」の推進を図るため、バイコロジーをすすめる会地方組織とともに、事業を実施した他、バイコロジー地方組織の統一活動として交通ルールの遵守と自転車乗用マナーの向上を訴えるキャンペーン活動を春・秋の全国交通安全運動期間中および５月の自転車月間にて実施し、バイコロジーの全国的な普及啓発を図った。

また、キャンペーンにおいて配布する啓発チラシ（反射シール付）を作成し、バイコロジー地方組織に配布した。

ス．シンポジウム開催

バイコロジー地方組織の活性化や地方から全国への発出を図るため、和歌山県紀の川市において「バイコロジーシンポジウム」を開催した。会場内において、自転車市民権宣言署名活動及び自転車環境パネルの展示出展など実施した。

セ．セミナー開催

平成２２年度に引き続き、新しい自転車利用の社会的認知を図るとともに、高付加価値自転車の普及等の啓発活動を実施し「自転車市民権」の確立を目指すため、自転車と環境・健康問題、あるいは都市交通における自転車の役割や走行空間など、様々な問題を一般の方々と共に考える場として、自転車セミナーを計５回開催した。

ソ．バイコロジー指導者養成セミナー

自転車を安心して乗ることができる環境づくりや今後の自転車のあり方を検討し、自転車市民権運動の活発化を図るため、バイコロジー地方組織の地域ごとに講師を招き、バイコロジー運動のリーダー育成を目的としたセミナーを３地区において、計３回開催した。

タ．パネルディスカッション

自転車を安全かつ快適に利用できる環境作りを目指す活動として、利用者自らが守るべき原則を定め、自転車の市民権を確立するために何が必要かなど、有識者を招いた「パネルディスカッション＝自転車市民権宣言大討論会」を日本自転車会館イベントホール（東京都港区）において開催した。

会場ではパネリストによる活発な意見交換が行われたほか、「自転車市民権宣言署名セレモニー」を行い、集まった自転車市民権宣言署名を自転車活用推進議員連盟に提出した。

２．予想される事業実施効果

ア．自転車月間推進事業

自転車月間事業を円滑に推進することにより、自転車月間の趣旨が広く一般に浸透・定着していくことが予想され、「自転車の日」記念事業を通じて、国民における自転車の安全利用意識の向上が期待できる。

イ．自転車に関する総合情報提供事業

自転車と歩行者の間における交通事故の増加や、東日本大震災以降、より一層自転車通勤や自転車スポーツに実際にとり組む方々が増えてきた社会的な背景の中で、当センターの情報提供と展示教育活動に対するニーズがより一層高まることが予想される。

ウ．自転車に関する企画催事

今回のような特徴のある使い方をする自転車の場合にはとりわけ、作り手が来場者や一般消費者に直接製品を説明して試乗してもらって、製品の良し悪しを体験して頂くことが、来場者にとっても作り手にとっても大変貴重な機会であり、また自転車に関する総合情報施設としての当センターが、中立的な立場でできるかぎり多くのメーカーに参加して頂いて他社製品と自由に比較検討できる場を、広く一般市民に提供することが求められると予想される。

エ．自転車に関する特別展示

自転車に関する総合情報提供施設として、博物館的な社会教育機関の活動として、当センターが収集・保管してきた自転車現物等の資料の研究成果を、テーマを設けて来場者に提供し、自転車に関する社会的な関心を高めて頂くことにより、自転車の文化的側面に関する関心が高まることが予想される。

オ．自転車の科学教室

来館する幼児・児童・生徒に対して直接的に教える機会としての教室を開催することにより、子供たちと親御さんに直接的に教育プログラムを提供し、その反響と手応えを感じられるとても有意義な機会であり、こうした活動に対するニーズを強く感じたことから、今後も教室実施を求められることが予想される。

カ．自転車の安全利用教室

子供たちがその成長の過程において、幼稚園・保育園・小学校で学び友達と触れ合う中で、生きる力を身につけていくが、社会の一員として暮らすにあたり、自転車を有効に安全に活用しつつ、自転車による交通事故の被害者にも加害者にもならずに済むように、自転車の楽しく安全な乗り方を身につける機会を直接的に提供することがさらに求められると予想される。

キ．自転車常設企画展示出展

我が国の「自転車のメッカ」である伊豆・日本サイクルスポーツセンターにおいて、

多数の来場者に向けて、当センターを紹介すると共に、自転車の歴史と文化について実車を通して紹介することにより、自転車文化に対する関心がより高まることが予想される。

ク．自転車利用環境研究レポート

当センターの活動に社会の注目が集まり、原稿執筆の依頼が求められたことは、競輪補助事業の支援を受けて行われている当センターの活動に対する評価がなされたことに加え、競輪補助事業自体に対する評価と理解の促進にもつながると予想される。

なお、レポートのうちの交通史学会学会誌、東京都及び茅ケ崎市広報誌にも研究成果を公表予定であり、さらに広報効果が高まることが予想される。

ケ．高齢者・障害者向け自転車普及啓発事業

展示試乗会を通じ、高齢の方、障がいのある方でも利用できる自転車の存在を多くの方に周知することで、自立した社会生活を送るための一助となることが期待できる。

また、体力維持やリハビリなどに効果があるなど、新たな自転車利用の可能性が期待できる。

コ．健康増進のための自転車利用啓発事業

健康や体力に関する生理生化学的指標に有意義な改善をもたらすことが検証でき、サイクリングの普及の一助となることが期待できる。

サ．自転車乗用に関する市民権宣言ポタリング

参加頂いた方々を中心に自転車の安全な利用についての広報がされることにより、ルール・マナーを理解した自転車利用者が増える事が期待される。

シ．バイコロジー地方組織開催

現在の社会状況に合致したバイコロジー運動のあり方、基本的な位置づけ、推進体制等を確認しつつ、中央団体・各地方組織ともその基本に添った具体的実践活動を展開してきたことから、バイコロジー運動のより深い浸透が図られるとともに、今後は国及び地方自治体における自転車乗用環境の整備促進や自転車の健全な普及が進むものと予想される。

ス．シンポジウム開催

「バイコロジーシンポジウム」を開催したことにより、各地域におけるバイコロジー運動の普及推進が進み、地方組織の一層の活性化、拡充が期待できる。

セ．セミナー開催

講師や参加者のネットワークの構築など、新たな情報発信手段として認知されているため、「自転車市民権」の確立されることが期待できる。

ソ．バイコロジー指導者養成セミナー

各地域におけるリーダーの養成により、「自転車市民権」や「バイコロジー運動」の普及推進が進み、地方組織の一層の活性化、拡充が期待できる。

タ．パネルディスカッション

自転車市民権宣言大討論会を開催したことにより、参加者の自転車利用に対する意識向上が図られ、安全安心に自転車が利用できる環境づくりが推進されることが期待できる。

３．本事業により作成した印刷物

・平成２３年度自転車月間「自転車の日」記念行事
『サイクルドリームフェスタ２０１１』来場者案内用チラシ　３，０００部

・平成２３年度自転車月間「自転車の日」記念行事
『サイクルドリームフェスタ２０１１』ポスター　１００部

・平成２３年度自転車月間「自転車の日」記念行事事業報告書　３００部

チラシ（表）

チラシ（裏）

ポスター

報告書（PDF）

・「高齢者・障害者向け自転車展示試乗会」ポスター　２０部

・「高齢者・障害者向け自転車展示試乗会」チラシ　２００部

・「平成２３年度高齢者・障害者向け自転車普及啓発事業報告書」　２００部

展示試乗会（ポスター・チラシ表・チラシ裏）

事業報告書(PDF)

・平成２３年度「自転車による健康増進のための自然科学的研究」報告書　２００部

・自転車安全利用促進キャンペーンパンフレット　　１２１，５００部

・自転車市民権宣言キャンペーンリーフレット（チラシ及び署名用紙）　各２０，０００部

・「バイコロジー・シンポジウム２０１１in紀の川」パンフレット　３，０００部
・「バイコロジー・シンポジウム２０１１in紀の川」ポスター　１，０００部
・「バイコロジー・シンポジウム２０１１in紀の川」報告書　２００部

パンフレット、ポスター

報告書

・「平成２３年度自転車セミナー」報告書　１００部

・「自転車市民権宣言大討論会」チラシ　１，０００部
・「自転車市民権宣言大討論会」報告書　１００部

大討論会（チラシ表　・　裏）

事業報告書(PDF)

４．事業内容についての問い合わせ先

団 体 名：　財団法人　日本自転車普及協会（ニホンジテンシャフキュウキョウカイ）
住　　所：　107-0052
　　東京都港区赤坂１－９－３
代 表 者：　会長　　石黒　克巳（イシグロ　カツミ）
担当部署：　事業部（ジギョウブ）
担当者名：　部長　田中　栄作（タナカ　エイサク）
電話番号：　03-3586-3278
F　A　X：　03-3586-9782
E-mail　：　jifukyo@jifu.jp
U　R　L　：　http://www.bpaj.or.jp

次ページ以降は、過去の補助事業の内容に関する資料となります。

【競輪補助事業の成果：（財）日本自転車普及協会】

１．「公共交通としてのレンタサイクルシステム研究会」の成果

“ベリブ”というパリで大人気の自転車交通システムが日本でも登場??

平成 20 年度～平成 22 年度に行った「公共交通としてのレンタサイクルシステム研究会」の調査研究の成果として、次の 2 都市で、本格的なコミュニティサイクルの導入に向けた取り組みが行われている。

ー横浜市「みなとみらい地区」で横浜都心部コミュニティサイクルの社会実験を実施中

ーさいたま市は「コミュニティサイクル」の導入指針を決定、平成 25 年以降で実稼働を目指す。

コミュニティサイクルとは、一定の地域において多数の駐車施設（ポート）を配置し、利用者はどのポートにおいても借りることができ、またどのポートにでも返却することができるシステムである。

欧州では多数の都市が試行的にシステムを導入しているが、2007 年パリが“ベリブ”と名付けて導入を開始すると、あの花の都パリで、しかも 2 万台を超える大量の自転車が投入されたため、一気に世界中の注目を浴びることになる。

それ程自転車を利用していなかったパリっ子が利便性を評価して飛びつき利用回数が飛躍的に伸びていくと、交通渋滞の解消、環境負荷の軽減等の効果があるとも評価され、“パリ市は自転車による交通革命がおこったようだ”と表現されドラスチックな転換が起こっていると世界中に紹介されていく。この取り組みはロンドン市の自転車革命にも多大な影響を与えている。

＜ベリブ：貸出・返却ステーション＞

＜ベリブで街中を走るパリジェンヌ＞

“ベリブ”では、300m ピッチに、1,451 か所のステーションを設置、そこに 20,600 台もの自転車が配備され、観光に、営業に、買物にと市民の足として気軽に利用することができるようにしたもの。30 分以内の利用であれば無料という画期的な料金体系が取り入れられており、短時間でうまく利用すると地下鉄の料金に比べて格安であり、移動の利便性に優れていることから、これまで普段あまり自転車に乗らなかったパリっ子も飛びつき、日常の交通手段として瞬く間に利用数が増大していった。

この計画は、実に用意周到に準備されたもので、パリ市はこのために 10 年間で市内に 400km 弱の自転車道を整備し、利用しやすい環境を作り上げている。また、屋外公告規制の厳しいパリの特性を生かし、ベリブ事業実施者に独占的に公告掲出権を付与、広告料収入を事業者の収入とする代わりにコミュニティサイクル事業を実施するというもの。市の税金を投入せず事業を行うというビジネスモデルは画期的なものであり、大いに注目されるところとなった。

わが国では、地球温暖化防止策の一つとして自転車の活用が謳われ、観光地などを中心にレンタサイクルは行われていたが、ステーションがあればどこで返却できる利便性の高いコミュニティサイクルシステムは存在していなかった。

こうした中、低炭素社会の実現、健康志向、エコな社会の実現といった社会的な要請もあって、我が国への導入を目指すこととし、欧州での事例を参考に、日本版コミュニティサイクルシステムのビジネスモデルを策定することとした。研究会は、JKA からの補助を受けて、2008 年 10 月、「公共交通としてのレンタサイクルシステム研究会」を立ち上げて検討に入った。

この調査研究会の立ち上げが一つのきっかけとして、各地でコミュニティサイクルの導入に向けた検討或いは社会実験などがおこなわれていく。

社会実験等を行っている主な都市として、

札幌市、仙台市、さいたま市、世田谷区、千代田区、横浜市、茅ヶ崎市、富山市、

金沢市、名古屋市、堺市、高松市、広島市、熊本市、鹿児島市などが挙げられる。

そうした都市のなかで、横浜市、さいたま市は当研究会が直接関与している。

① 横浜市は平成 21 年度当協会も協力して社会実験を実施、現在も社会実験として継続的に横浜みなと未来地区を中心にコミュニティサイクルを実施している。実質的には導入といっても良い状況。

※下記、横浜市コミュニティサイクル社会実験実施エリア図参照。

図 2-1　サイクルポート設置箇所

（出典：横浜市都心部自転車施策検討（コミュニティサイクル導入検討）報告書）

② さいたま市では、平成 22 年 9 月 25 日～10 月 22 日において当協会が競輪補助事業として社会実験を行った。社会実験の結果を踏まえて、平成 23 年度にさいたま市コミュニティサイクル導入促進検討委員会を設置し、「さいたま市コミュニティサイクル導入指針」を策定。さらに本格的導入を目指して、平成 24 年度は、事業者を選定するための検討委員会がおこなわれている。平成 23 年度に引き続き検討会の委員として当協会から参加している。

さいたま市内コミュニティサイクル社会実験実施エリア

今後、平成 25 年度には導入を図っていく予定で、予算等の調整に入っている。

「公共交通としてのレンタサイクルシステム研究会」をいち早く立ちあげたことにより、今全国で導入検討の先鞭をつけたことは疑いのないことであり、具体的なシステムの実現にもつながっており、大きな成果と言える。

またこうしたコミュニティサイクルの導入のためには、『歩行者』と『自転車』と『自動車』相互の安全に十分配慮した道路空間の区分・整備が欠かせないが、欧米と比べると我が国はまだまだ不十分であり、昨今社会問題となっている自転車による交通事故を減らすためにも、利用者への交通ルールとマナーの啓発と合わせて、安全に走れる自転車通行空間の整備を進めることが非常に大きな課題であることを関係者はあらためて認識し、研究会としても提言した次第である。

既に横浜市のコミュニティサイクルは体験してきた。次はさいたま市のコミュニティサイクルがどのような形でお目見えするか？通勤、買物、観光果してどのように活用されるのか、早くさいたま市内を自転車で走りまわってみたいと今から心待ちにしているところである。

「公共交通としてのレンタサイクルシステム研究会」は、次のように実施した。

１年目　「コミュニティサイクルの理念構築」－　我が国に適したモデル構築

２年目「フィージビリティ調査」

３年目 導入可能性のある都市での「社会実験」

研究会は、東京工業大学の屋井鉄雄教授に座長をお願いし、さらに有識者、自転車専門家で構成した。この会議では、波及効果を考えて、オブザーバーとして経済産業省・警察庁・環境省・国土交通省・地方自治体の方々の出席も求め、関係省庁横断で実施した。その甲斐があって、自治体の強い関心を呼び、地方自治体からの傍聴も多数にのぼっている。当財団が行う研究会としては異例ともいえるほど関心を受けることとなった。

＜参　考＞

上記に関する詳細な内容は、㈶日本自転車普及協会のホームページ内の活動報告でご覧いただけます。

自普協ＨＰ　http://www.bpaj.or.jp/

活動報告

２０１０年度㈶日本自転車普及協会の活動報告 ※下記のハイパーリンクでご覧下さい。

・1年目の調査：「公共交通としてのレンタサイクルシステム研究会報告書」

・横浜市の社会実験等：「公共交通としてのレンタサイクルシステムフィージビリティ調査報告書」の中の横浜市

・さいたま市の社会実験：「さいたま市コミュニティサイクル導入促進事業報告書」

２．企画催事に出展したハンドメイドビルダーの海外での活躍について

自転車の情報発信基地である「自転車文化センター(科学技術館内2階)」が、約２０年以上に渡って開催してきた『ハンドメイドバイシクル』（ハンドメイドビルダー：乗り手の体格・用途に合わせてオーダーメイドで自転車を創る高い技術を持った専門メーカー）展は、自転車トラック競技の最高峰・競輪選手やロードレースか選手、そして自転車スポーツ・サイクリング愛好家から毎回好評を得てきた。

平成２３年度は、東日本大震災の復興支援に自転車が活躍することへの願いも込めて、自転車の持つ魅力と暮らしに役立つ利便性を広く紹介するために、企画催事「自転車が人にできること ～ここまでできる自転車の魅力～」と題して下記のとおり展示会を開催した。

名　称：企画催事「自転車が人にできること ～ここまでできる自転車の魅力～」

期　間：平成23年10月1日(土)～2日(日)（2日間）

場　所：科学技術館1階　1・2・3・4号催物場

内　容：(1)「人に役立つ」事をテーマとしたハンドメイドや特別製作車の展示と試乗

(2)「運搬用自転車の活用事例」展示コーナー

(3)「東日本大震災被災地サイクリストからの声」展示コーナー

(4)「非常時に役立つ自転車と自転車用品」展示コーナー

(5)自転車文化センター所蔵の「物を運ぶ自転車」の歴史展示

※来場者：計1,011人（10月1日(土)357人／10月2日(日)654人）

＜ハンドメイドや特別製作車の展示＞

＜試乗コーナー＞

日本のハンドメイドビルダーの高い技術は、中野浩一選手の世界選手権１０連覇達成の偉業を支えた長澤義明氏を始め、競技用自転車や工芸品として世界でも高く評価されており、加えて当センターが実施してきたハンドメイドバイシクル展に触発されてアメリカにおいてもハンドメイドバイシクルに焦点を当てた展示会が企画されるようになった。

本企画展にも出展した、国内有数のハンドメイドビルダーである今野真一氏［有限会社今野製作所代表取締役：ブランド名「ＣＨＥＲＵＢＩＭ（ケルビム）」］は、２０１２年３月２日から３日間、アメリカ・カリフォルニア州サクラメントで開催された世界最大規模の北米ハンドメイドバイシクルショー（Ｎｏｒｔｈ Ａｍｅｒｉｃａｎ Ｈａｎｄｍａｄｅ Ｂｉｃｙｃｌｅ Ｓｈｏｗ２０１２：略称ＮＡＨＢＳ／第８回目）において、出展作品の「ハミングバード」が見事ＮＡＨＢＳグランプリを獲得して表彰された。

※出典：『シクロツーリスト 旅と自転車 vol.6』（2012 年 5 月 25 日発行）グラフィック社

日本のハンドメイドビルダーの高い技術と自転車に対する深い造詣が評価されたことは大変喜ばしく、ビルダーの作品発表の場をこれからも大切にしてまいりたい。

３．自転車文化センター学芸員による自転車利用環境研究レポートの発表について

自転車文化の継承と普及、ならびに現在・未来における“人と自転車・社会と自転車”との関わりを考える提案のための調査研究として、当センターの谷田貝一男学芸員と村山吾郎学芸員が下記の各６テーマ／合計１２テーマのレポートを作成し、調査研究報告書を全国都道府県立図書館や全国都道府県交通安全協会等に配布すると共に、下記のとおり当センターホームページにおいて公表した。

http://cycle-info.bpaj.or.jp/japanese/kenkyouhoukokusho.html

なお、平成２２年度の研究レポートを読んで下さった方々から取材・講演のお問い合わせの反響を頂くとともに、２３年度においては谷田貝学芸員が「交通史研究第 77 号」誌に寄稿すると共に、茅ヶ崎市の依頼を受けて広報「ヒストリア茅ヶ崎第 4 号」誌に寄稿、村山学芸員が東京都消費生活センターの依頼を受けて広報誌「東京くらしねっと No.180」に寄稿し、多くの方々に読んで頂く機会を得ることができた。これからもさらなる情報発信に努めてまいりたい。

＜左：交通史研究第 77 号「大正期自転車卸売業界」／谷田貝＞

＜中：ヒストリア茅ケ崎第 4 号「石上巡査日記から判明した日本最古の自転車ロードレース」／谷田貝＞

＜右：東京くらしねっと No’180「自転車で楽しい外出を！～ルールとマナーを守って安全に～」／村山＞

http://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/kurashi/1204/wadai.html

以　上